そ の 133

間の湯澤厚さんから ぶった書籍があるよ れていてホコリをか ろうか、MSCの仲 ては本棚が一棹残さ けを任された。つい になる住宅の後片付 「数日内に取り壊し 昨年の盆前だった れていた。とりあえ に神棚と本棚が残さ

おぼしき六畳の部屋 つけた。 えたようにガランと げられ、引越しを終 している。奥の間と 階はすでに畳も上 二階建ての住居の 水野都沚生の旧宅趾にて■

係の郷土の書籍が並 と、地名や民俗学関 文字を読んでいく ず書棚に残る本の背 んでいる。ふっと気 その受賞者名は水野 夫の名前が読める。 都沚生(としお)と ある。嗚呼。

の会」からの感謝状 居には「飯田文化財 があり、会長大沢和 つくと本棚の上の鴨 43年2月追手町の神 て生まれた。旧制飯 職の家の5代目とし 水野都沚生は明治

時事新聞の記者を務 24年に帰郷し、南信 渡った。戦後は昭和 務取締役を務めた 召集され満州へ 昭和19年34歳の

不 濁 年まで飯田高松、

卒業後の昭和8年に 地にもゆかりの深い 学国文科に進み、当 **聞記者を経て、** 講義を受けている。 田中学から國學院大 民俗学者折口信夫の 社、その後、報知新 **大阪毎日新聞社に入**

翌朝、追手町二丁

飯田美術博物館

人った。湯澤さんは

という趣旨の連絡が き取る気があるか」

斜向かいの現場にい

の都合をつけて駆け くというので、仕事 うだが、MSCで引



判上製324%定価 のたから 上巻』(A 昭和46年1月『郷土 1000円)、さらに 次大戦のころ』(A5 定価700円)『第二 集』(A5判362%) 郷土の百年 第二 翌44年11月には を継続 新聞連載 をかって ところ部 れ。余勢 数は不明 O (円) で売り切 か1カ月 だがわず 冊として として1 上梓した 事務局代表、そして時代の文化財の会の 人前後の郷土史・文松井卓治市長など50 海のような出版が続価1000円)と怒 あたった編集長が水 の底力を示し、 先述の賞状は、 野都沚生であっ とりまとめ、出版に や経済人が健筆を奮 史家・教員・政治家 学・美術・音楽・の たものであった 伊那の文化人・ 幅広い分野の飯 本の出版の労に にもあったそれらの 代を現出した。この い、「文化都市飯田」 いた。日夏耿之 郷土下 一時 た。 月号まで60編余の論 月号で、以後52年8 年後、昭和52年8月 る。「時又の「かみか 財の会」の刊行物と 昭和49年刊行された る。これらの多くは 考が発表されてい れたのが昭和33年3 イザ」考」が発表さ 那』誌への執筆の半 してまとめられてい 会)や既述の「文化 んじょう」」の『伊 民俗拾遺』(国書刊行 『秘境伊那谷物語―

事務局長を務めたの る。この年、飯田文 宜などを務めてい 得て鳩ケ嶺八幡宮禰 和40年神職の資格を とった。この間、昭 郡下の高校で教鞭を 化財の会が発足し、 下農、長姫など 翌年6月まで8カ月 の百年」が好評裡に は『郷土の百年』(A となり、また8月に 185回に及ぶ連載 始まった連載「郷土 月から「南信州」に を期して昭和42年11 5判362~定価5 明治改元100年

5判上製230%定